

# S&Uだより

2021年4月10日

(株) マルジン

福井 TEL 0778-27-7200 FAX0778-27-7201

名古屋 TEL 0586-81-1895 FAX0586-81-1896

新潟 TEL 0258-94-5772 FAX0258-94-5773

福島 TEL024-983-3970 FAX024-983-3971

safety & useful 発行 No281

コロナ第三波もある程度抑えられた感のある日本ですが…変異株の出現もあって 下げ止まりというか？微増？というか？「緊急事態宣言すべて解除」といえるほどは なかなか収束は見えません。

世界に後れを取っていた ワクチン接種も先月より始まり 今月は後期高齢者への摂取が始まります。

日本もそうですが 多くの国では重症化して死亡する可能性が高い高齢者を優先してワクチンを接種しています。

しかし、インドネシアでは若年層が先で、「非正統派」のアプローチをとっていると、各国のメディアが報じています。

インドネシアの初期ガイドラインでは、60歳未満の成人に最初に接種されることになっていて、「家の外に出てあちこちに行き 夜になると家族の元に戻ってくる」働く人々の予防接種を優先させることは理にかなっていると主張する人も多  
いです。インドネシアが集団免疫を獲得する可能性が最も高い方法だとしているのです。

「人々を守り、感染して広める可能性の高い人々をまずターゲットにする」ということらしいですが

日本では 老人もかなり活発に 旅行に興味に移動したりしますので 広める可能性はあるといえるでしょう。

インドネシアの知人が 接種の動画や写真を SNS でUPしていましたが 痛そうでした。

インドネシアはアストラゼネカ社のワクチンも調達するようですが 今はほとんどが中国製ワクチンです。

今月初めまで 約一万人の感染者が発生していましたが これからどう推移していくのでしょうか？

若い人は重症化しにくいという 新型コロナですが 変異株は 致死率も高いうえに子供たちにも感染するようで 新学期が始まると同時に 学校でのクラスターが懸念されるようです。現在の 一進一退の感染者数も この変異株が増加しつつあるからではないか？というデータもあり なかなか首都圏の緊急事態宣言解除は 判断が難しいところでしょう。お花見の季節でもあり 春休み 新学期など 人の移動が多くなりそうなこの時期 抑えていた自粛のストレスが 解放されては 一気に感染者数が増加しないとも限りません。

世界を見ますと ワクチン接種が進みだしたこともあり 米国で新型コロナウイルスワクチンの 2 回の接種を終え、ワクチン接種証明書(ワクチンパスポート)の発行を受けたベトナム人が、3月半ばですが ホーチミン市タンソンニャット国際空港に到着したそうです。米国で「ワクチンパスポート」を取得したベトナム人が帰国したのは初めてのケースです。

ワクチン接種を受けて帰国した医師は米国で修士号を取得し、スポーツ医学と産後リハビリテーションを専門としている人で今回は仕事のためにベトナムへ帰国したということです。

この医師のパスポートには、米国疾病予防管理センター(CDC)の接種証明書が添付されているのですが、ベトナムではまだ「ワクチンパスポート」に関する規定や仕組みが整備されておらず、効力がないようで ベトナムの規定に従って他の入国者と同様に 14 日間の隔離措置を受けなければならないとのことでした。

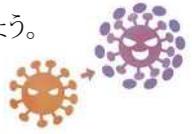
しかし、日本は今後「絶対開催する」と IOC が断言する「東京オリンピック開催」決定! となると 多くの海外の選手や関係者 および、もしかすると観客等受け入れることが必要になってきます。

「国際的な海外渡航に何かこうしたものが必要られるというような状況に万が一なった場合には、日本としても対応することが必要になってまいります」(河野太郎行革相)

海外渡航などの際にワクチンを接種したことを証明するいわゆる“ワクチンパスポート”について、河野大臣は国際的に求められる状況になれば日本としても対応する考えを明らかにしました。

一方で、アレルギーなどでワクチンを打てない人もいることから、国内での導入については否定的な考えを示しました。ワクチン接種した人のみ優先となると差別につながりかねないということです。

コロナも未知なものであり ワクチンの効能もまだ確実にわかってはいません。インフルエンザ予防接種と同レベルであれば・・・家人などは「予防接種打っても インフルエンザに罹った！しかもご丁寧に A も B も・・・」などという時もありましたので 接種したら感染しないのではなく 感染しても重症化しない という程度に思っていればよいのかもしれないね。ともかく 私は進んで接種しようと思っています。変異株にも効くといいですね。



## マルジン 4 月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

## ～建設業許可証届きました～

【国土交通省近畿地方整備局より】

更新手続きをとっていた

建設業許可証が届きました。

有効期限は令和 8 年 2 月 4 日までです。

現場提出用で ご入用の方は

また ご連絡ください。

## 2021年4月第281回は～他人に必要とされるモノルール～について

第一生命保険は先月、将来なりたい職業の2020年度のランキングを発表しました。小学生の女子の1位が「パティシエ」だったほかは、男子の小中高生、女子の中高生のいずれも「会社員」がトップだったそうです。同社は「在宅勤務が広がり、自宅で仕事をする親の姿を身近に感じた子どもが多かった」と分析しているようです。

小学生の男子の2位は「ユーチューバー」、3位は「サッカー選手」。中高生の男子はいずれも2位が「ITエンジニア・プログラマー」で、技術革新が進む社会の変化を捉え、IT系の仕事が上位を占めました。全国の小学3～6年生と中高生計約3000人に実施したとのことです。

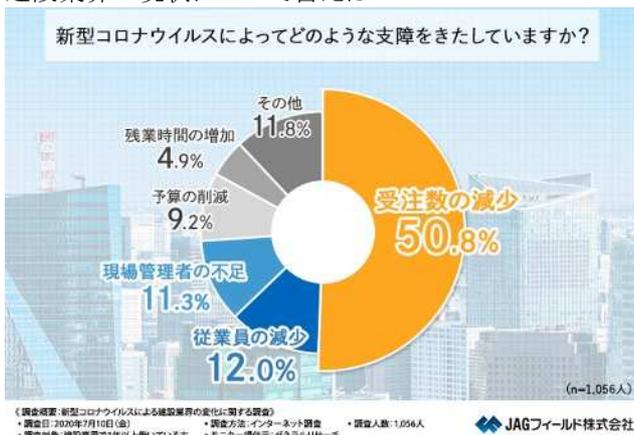
(「会社員」との回答は、バブル期の1989～91年に「サラリーマン」がベスト10にランクインして以来)

コロナ渦でリモートワークも増え 世界の様相を変えてしまいました。各国は繰り返し厳格なロックダウン措置などを行い、気軽に外を出歩き、人と接することが禁じられるようになりました。それは2回にわたる緊急事態宣言を経験した日本も例外ではありません。その結果、気づいてしまったのだそうで、毎日出勤して自分が行っていた仕事は、実はなんの意味もなかったのではないかと。世の中は文字通り、「クソどうでもいい仕事」に溢れていた・・・という人がいます。管理職で 会社に出社し決済のハンコを押す、会議などに出席するような人たちは 今 リモートで部下が必要なデータをまとめ上げ提出してしまうので 何一つ業務に携わらず一日を過ごすようになってしまい 今、戦々恐々これからのリストラ対象になっているとか？

子供たちが「なりたい職業」と見ているリモートワークの親たちとは少し上の年代の事でしょうか・・・

誰も経験したことがない「コロナ禍」だからこそ見えてきた「他人に必要とされる仕事」「淡々と誰かがやらねばならない仕事」「働くつらさや意義」子供たちも含めいろいろと考える機会になっているのかもしれない。

建設業界の現状について言えば

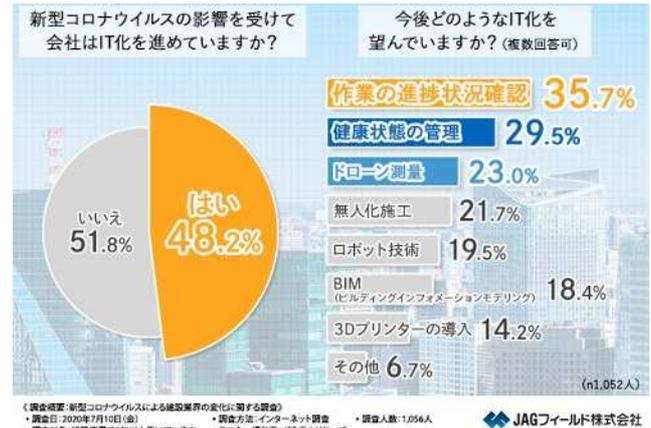


コロナ禍においても、建設業界は堅調を維持しています。その理由としては、今から約50年前、高度経済成長期に建設されたインフラは老朽化対策が必要な時期に来ており、政府は年々、そうしたインフラ対策費を増大させています。こうした傾向は今後20年間続く予測されており、そのため建築業界は、今後の長期的な好調が見込まれる業界と目されているのです。

もう一つ、建設業界の堅調を維持しているのが「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」、通称「国土強

靱化計画」です。

近年、台風や集中豪雨、地震などによる被害が日本全国で多発しています。これらに対応するため国は、災害対策として一兆円近くもの費用を割きました。そうした一連の緊急度の高い計画は、コロナ禍の混乱の中でも建設業界の仕事が減らない、大きな理由となっています。東京オリンピックや大阪万博、リニア新幹線開業などに伴う、新たな建築需要は、建設業界の堅調を支える大きな要素といえます。



また日本国内だけでなく、海外の建築需要にも注目されているところ。コロナ禍における建設業界の働き方の変化についてコロナ禍でも堅調を維持している建設業界ですが、その影響がまったくなかったかといえそうではありません。たとえば工事や打ち合わせの中止、白紙化をはじめとして、工期の延期や受注数そのものの減少、従業員不足などといった悪影響は当然のごとくありました。ただ、他の業種に比べると壊滅的な悪影響を被ることは避けられたといえます。

建設業界大手はそれなりに好調を持続していますが、小規模業者のコロナ関連破たんは増えているようです。

コロナ禍のシワ寄せを受けているのが経営体力の乏しい小・零細の建設業者という構図です。今後、工事案件が減少すると、業者間でのパイの奪い合いがさらに激しくなり、かつての受注単価のたかさ合いが再現することも危惧されているところ。

モノルールの仕事を考えると「無人化・ロボット技術」が進歩するなら「ドローンで測量、ルート設定」その後「ハンマーロボットがルールを押し出しながら敷設」となれば 作業員がハンマーを振り回さなくても 少なくとも完成することでしょう。現場の管理は進捗を随時データで把握できます。そうすると「将来なりたい職業のトップは建設・モノルール敷設レンタル業」になるかもしれません。

しかし・・・そんな今後でしたら「モノルール業」自体が「どうでもいい仕事」になっているのかもしれない。なぜなら ドローンは大きく進化し モノルールで物資を運ぶ必要がなくなっているでしょうし 作業員も人員運搬ドローンでピュッと頂上まで。。。実際のところ 老齢化の進む建設中小は そういう今後は懸念してか 今堅調な時に「倒産でなく廃業」という道を選ぶところも出てきているようです。未来のために 踏ん張って「他人に必要とされる働き甲斐のある仕事」を どう確立していくかが 大きな大きな課題だと思えます。